

強震動予測研究と設計用入力地震動—この10年を振り返り考える

＜主催＞ 日本建築学会 構造委員会 振動運営委員会 地盤震動小委員会

『地盤震動研究を活かした設計用入力地震動作成法』が出版されて10年となる。この間に平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震を含む海溝型地震や平成28年(2016年)熊本地震を含むいくつかの地殻内地震を経験し、地震観測記録などに基づく新たな知見を得て、強震動予測に活かすべく様々な角度から研究が進められている。これらの知見をふまえた強震動予測や設計用入力地震動について研究者と設計者で共有することは、将来起こる地震に対する耐震検討を行ううえで有益と思われる。

本シンポジウムでは、この10年に起こった地震の特徴と得られた知見について改めて確認しつつ、最新の知見を活かした強震動予測研究に関して認識を共有し、さらに設計用入力地震動の策定事例を通して幅広く議論する。

日時 : 2019年11月15日(金) 10:00~17:00

場所 : 建築会館ホール (東京都港区芝 5-26-20)

内容 (各講演の題目等は変更されることがあります)

司会 : 大野 晋 (東北大学)・神野達夫 (九州大学)

: 上林宏敏 (小委員会主査/京都大学)

1. 主旨説明 10:00~10:10

2. この10年間の主な地震の強震動とその解釈 10:10~11:25

2-1 平成30年北海道胆振東部地震の強震動と震源モデル : 浅野公之 (京都大学)

2-2 平成28年(2016年)熊本地震—震源近傍記録の再現とその解釈 : 永野正行 (東京理科大学)

2-3 平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の強震動による震源モデルと津波シミュレーション
: 吉田邦一 (地域地盤環境研究所)

司会 : 引間和人 (東京電力ホールディングス)

3. 特別講演 11:30~12:30

3-1 断層近傍の強震動について

: 額縁一起 (東京大学)

司会 : 松島信一 (京都大学)・高井伸雄 (北海道大学)

4. 強震動予測研究の現在地 13:40~14:55

4-1 強震動予測の震源モデル化の現状 : 三宅弘恵 (東京大学)

4-2 関東地方における深部地盤構造モデルについて : 鈴木晴彦 (応用地質)

4-3 強震動計算法の現状 : 川辺秀憲 (大阪大学)

司会 : 大堀道広 (福井大学)・三浦弘之 (広島大学)

5. 設計用入力地震動の策定および適用事例 15:05~16:20

5-1 南海トラフ地震の設計用長周期地震動 : 小山 信 (国土技術政策総合研究所)

5-2 土木分野における設計用入力地震動—特にサイト波について : 野津 厚 (港湾空港技術研究所)

5-3 300m超高層建物と入力地震動 : 佐分利和宏 (竹中工務店)

司会 : 高橋広人 (名城大学)・関口 徹 (千葉大学)

6. 総合討論 : 強震動予測研究を設計用入力地震動にいかにか 16:20~17:00

記録 : 田中清和 (大林組)

定員 : 180名 (事前申込み不要、当日会場先着順) *受付は開始30分前からです

参加費 : 会員5,000円、会員外8,000円、学生3,000円 *資料代3,000円含む。

※個人会員(学生を除く)の方は本会会員証をご持参ください。

問合せ : 事務局事業グループ 伏見 Tel. 03-3456-2057

※別途有料にてリアルタイム動画配信を実施します。視聴希望の方は以下のURLからお申し込みください。
なお、動画配信をお申し込みの方は、会場への参加・入室はできませんのでご注意ください。

▶ <https://www.aij.or.jp/event/detail.html?productId=625041>